

持続可能な畜産経営を目指した地元産飼料資源の活用

東北農林専門職大学附属農林大学校・畜産経営学科 西村一姫

〈取組の背景〉

近年の世界的な穀物相場の高騰による飼料価格の上昇に加え、全国的な子牛価格の低下により繁殖農家は危機的状況に陥っている。特に飼料価格は2020年から比べると2023年では約1.5倍にまで上昇しており、繁殖農家を苦しめている。将来にわたって繁殖経営を持続していくためには飼料コストの低減が必要不可欠である。

そこで、地元真室川町内で作られている比較的安価な飼料である粃米サイレージ(SGS)に着目した。本試験では、SGS代替給与による子牛の発育への影響および、飼料コスト削減効果を調査する。

〈調査内容〉

供試牛：黒毛和種子牛25頭
調査期間：生後5ヶ月齢～子牛市場出荷まで(約10ヶ月齢)

表1 調査区分・調査方法

試験区	供試頭数	1日当たり給与内容
慣行区	12	調査農場の慣行メニューを給与
SGS区	13	慣行メニューのうち市販配合飼料2kgをSGSに代替して給与

表2 給与メニュー(kg/日)

試験区	配合A	配合B	配合C	SGS
慣行区	2	4	1	0
SGS区	0	4	1	2



図1 SGS



図2 発育調査



〈調査結果〉

①日増体重(DG)

SGS区のDGは慣行区と差がなく、同等の発育が得られた。

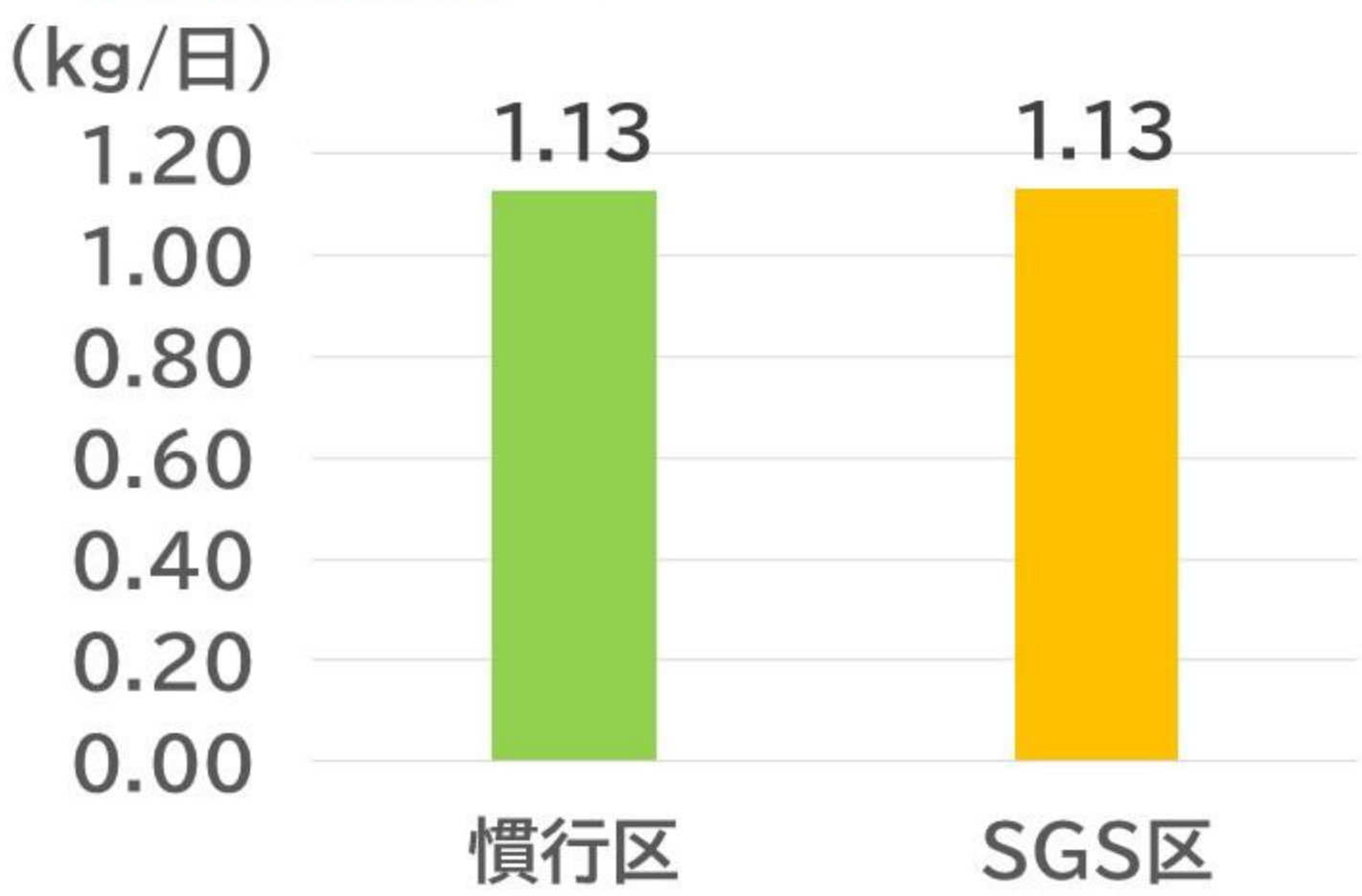


図3 調査期間中の日増体重

②飼料コスト

SGS区の調査期間中の飼料コストは、慣行区に比べて22,500円の削減となった。

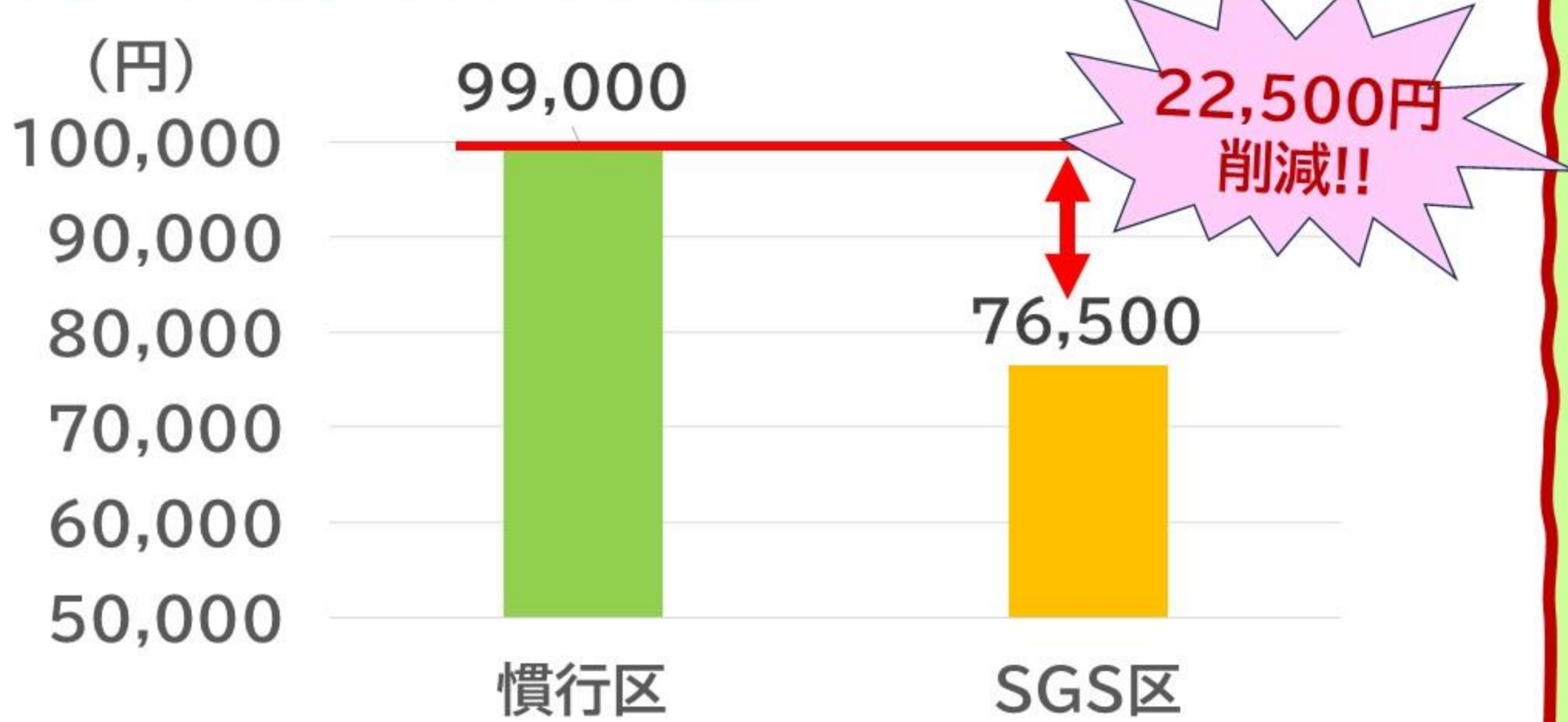


図4 調査期間中の飼料コスト

〈考察〉

- SGS区と慣行区のDGに差がなかったことから、市販配合飼料を一部代替してSGSを給与しても発育には大きな影響がないと考えられる。
- また、SGS一部代替給与により飼料コストの削減が図られたことから、SGSの給与は繁殖経営の収益向上につながると考えられる。
- 地域内で生産される飼料資源の活用により、耕種・畜種ともに持続可能な経営につなげていきたい。

〈参考文献〉

名人が教える和牛の飼い方 コツと裏ワザ2 (一般社団法人 農山漁村文化協会)